

【様式1】

令和6年度「前期」学校関係者評価

春日市立春日小学校 校長 落合 純哉

1 学校の自己評価の結果(目標の達成状況や取組状況等)

	A：学力育成	B：心力育成	C：体力育成	D：安全力育成
児童評価	3.1	3.2	<u>3.0</u>	<u>3.7</u>
教師評価	2.9	3.3	<u>2.5</u>	<u>3.0</u>
保護者評価	3.2	3.0	<u>2.9</u>	<u>3.0</u>
地域評価	2.9	2.8	<u>2.8</u>	<u>2.8</u>

(4段階評価)

- ・ 体力育成(運動・睡眠)については全体的に評価が低くなっている。
- ・ 安全力育成については、児童評価と教師・保護者・地域の評価に顕著な開きがある。

2 学校関係者評価委員会(学校運営協議会)で出された意見

- 「自分の良いところが言える」という評価項目は、児童の発達段階によっては難しい内容ではないか。学年で少し内容を変えてもいいと思う。(B：心力育成)
- 「進んであいさつをする」について、登校中等に挨拶をしない子を見かける。何のために挨拶をするのかを繰り返し子どもたちに伝えていく必要がある。(B：心力育成)
- 「起床時刻」については、休日の起床、就寝時刻も重要である。眠育の大切さについて、家庭へ発信していくことが必要である。(C：体力育成)
- 夏の暑さが厳しく外遊びが困難であったことが分かる。疲れやすい子が増え、体力も低下しているので、体力向上のためにできることを考えてほしい。(C：体力育成)
- 安全に関して児童の自己評価は高いが、登下校中のマナーや自転車の安全な乗り方など守れていない状況がある。(D：安全力育成)

3 自己評価及び学校関係者評価の結果を踏まえた学校運営等の改善点

【A：学力育成】

- 「主体的に学ぶ子ども」の姿や学力向上の取組について、学級、学年便り、学校便り、ホームページ等で、引き続き保護者や地域へ発信し、共有していく。
- 学力調査等の結果から実態を分析し、子どもが「できた」「わかった」という達成感を味わうことができるように、学力向上研修会等で協議しながら授業改善を進める。
- デジタルドリル等を活用しながら、個々に応じた学びを推進していく。

【B：心力育成】

- 「自分の良いところ」を子どもが認識できるように、学級活動や道徳の時間等で自尊感情を高めるような活動を仕組んでいく。
- 「自分から進んであいさつ」については、「あいさつの意義」を学級活動や道徳の授業で取り上げたり、家庭や地域とも連携して繰り返し伝えたりしていく。

【C：体力育成】

- 睡眠の大切さや生活リズムの調整については、眠育の授業や「保健だより」、「食育だより」等で発信し、家庭の協力も得られるようにする。

【D：安全力育成】

- 子どもの安全に対する意識については、月1回の安全タイムや全校朝会、通信等で継続して指導していく。また、PTA「かすがっ子まもり隊」とも連携して意識の向上に取り組む。